



大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：田原
広報部：五代・仲田・高尾
加茂・西脇・橋口
事務局：奥田・岡崎



辰年に懸ける

奥田 忠彦

干支の十二支には諸説がありますが、もとは「子」(=種子)から始まり「亥」(=核、結実してしんができる)に至る植物の生育状態を十二段階で表したもので、五番目の「辰」は「振(ふるう、ととのう)」の意味、草木が盛んに成長し形が整った状態を表すとされています。

今年は「龍」の絵をあしらった年賀状を沢山いただきましたが、十二支の動物は覚えやすいようにあとで振り当てたもので、「辰」はただひとつ、架空の存在です。

「架空動物のため、目に見えない情報や自然現象などによる出来事や事件が起こりやすい年」とも言われておりますので注意が必要ですが、一方、中国で「龍」は権力や富のシンボルとされており、わざわざ辰年に合わせ子供を産む人も多いと言われてい

ます。また、仏教の世界ではお釈迦が生まれる際、2匹の龍が守ったという説話から、日本では元々あった蛇神信仰と融合し、「龍神」としてあがめられているのです。

「辰」の元来の意味=草木が盛んに成長し形が整う=にあやかかって、被災地の復興、被災者の痛んだ心が和らぐ一年になりますことを、心からお祈り申し上げます。

神前で心新たに

1月7日の土曜日、今年で3年目となる、お初天神での初詣と新年会が行われました。

お初天神は昔から知っていましたが、機会が無く70歳にして初めて足を踏み入れました。境内はもっと広いと思っていましたが、案外こじんまりしていました。

3時半集合の10分ほど前に行きますと、もう皆さんが集まって、それぞれに新年の挨拶を交わしておられ、定刻に拝殿に参拝し、OISのますますの発展と参加者皆さんの活躍を願い、神主さんが祈祷して下さいました。



その後記念

写真を撮り、懇親会が行われるニューモーション本店に移動しましたが、ここは以前、時々来た場所で、思わず懐かしさがこみ上げてきました。

まずはビールの乾杯で始まり、皆さん、話に花を咲かせ食事も一段落、時間があつと言う間に過ぎ、最後にゲームか?と思いきや、今年はお初天神にちなんで“おみくじ”です。皆さんそれぞれ、大吉、中吉、小吉、大凶など色々な声が聞こえてきて、楽しい時間が過ぎました。



ちなみに、私の今年の運氣アップのポイントは、“物事を絞り込む”と書いてありましたが、何に絞ろうか、まだ迷って決まっておりません。

このようなアイデアも事務局の人たちが出されたからだと思います。

今年も良い運に巡り会えますように願いたいものです。感謝、感謝。

(文と絵・杉山 嘉孝)

青年部企画第10回 Designer's Bar OIS

記念すべき第10回目のバーは、昨年10月1日にいつものコラムデザインセンターで行われた。

今回の目玉は西脇理事によるミニトーク「旅KEN 建築士が見た世界建築」だったが、もう一つ、10回目にして初めてという土曜日の開催でもあった。

企画段階で、今まで実施していない土曜日に一度くらいはやってみようという話の中で、「土曜日は休みの人が多いからダメかも」という一抹の不安を抱えていたが、悪夢は正夢となり過去最低の14人という参加者であった。

それでも定刻に



パソコンを使って説明をする西脇理事

スタートし、ほぼ全員が揃った頃を見計らって「ミニトーク」がスタート、西脇さんの熱いトークが始まった。若くしてすでに世界20か国を見て回ったというだけのことはあり、建築士としての知識・感性で選りすぐられた写真が次々と投影された。

西脇さんは最後に「若いうちに海外旅行を経験することにより見聞を広め自分を大きくしてもらいたい」と力説されていた。

世界旅行を取り上げた「旅モノ」テレビ番組は数多いが、それらでは見ることができないような珍しい建築物とその説明に、参加した人は幸せだなと、誰しもが思ったに違いない。



オランダ・100戸の老人用集合住宅

料理、飲み物はいつもどおり豊富だった



フランス・サトラス空港TVG駅

が、中でも、これも今回初お目見えの「たこ焼き」の人气が高かったように思う。

今回参加者が少なかったのであわててというのではないが、今後も楽しいバーを継続するためにアンケートが実施された。今後それらの意見を加味し、反映されるものと思われるので、是非期待し参加していただきたいと強く思う次第である。

(記・奥田 忠彦)

東寺・東大門修理工事



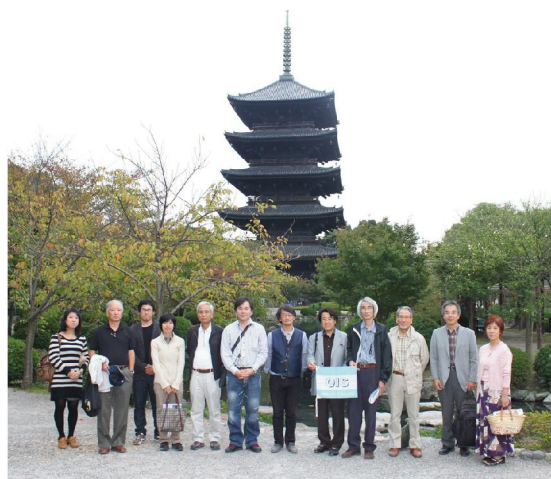
は難しい問題でした。

講堂・金堂・五重塔・東大門(不開門)などの主な建物を見学しました。詳しい説明をしてくださった技師の話が聞こえないことは本当に残念でしたが、当日配られた資料を読みながらメンバーと回りました。

金堂内の柱には四角い穴が開いていました。その時は理解できませんでしたが、この穴に角材を通して、テコの原理で柱上部に部材を組み入れる際のねじれ調節のために必要だそうです。

東大門の破風板の下に取付けられた懸魚(げぎょ)は細長く、先端の尾ひれのような形が魚をイメージさせました。懸魚は火に弱い木造寺院を火災から守る、お守りのようです。

今回の見学会では、建物の舟肘木や平三斗、山三斗、出組、三手先など、斗と肘木の組み合わせに、組物の技術を感じました。



そして東大門の修理現場は、個人ではなかなか入れないところなのでいい経験になりました。

参加されたOISの皆さん、色々ありがとうございました。(記・中島 大介)

スケッチの会



単にスケッチといいますが、野外で休日に1人で絵を描くことはとても勇気がいることだと思うのです。あなたも他人のスケッチを自然と覗いていたりしませんか。逆に覗かれる立場になると、とても気になるものです。私は背後を人が通ることができない場所を選び、鉛筆で下描きを始めました。



指導する渡辺さん(右)

ほとんど初めての体験ですから、思うようには描けません、集中している時間は楽しいものです。

渡辺さんは午前中、参加者の様子を見て回られ、昼食後は着色の見本を実践で説明されていました。忙しい中、本人も短時間でスケッチを仕上げられていたが、「あのよう描けたらいいなあ」と

感心するばかりでした。

あっという間に終了予定の15時になり、一同集まり作品を並べて講評会を行いました。さまざまな方角から中央公会堂を描かれていましたが、絵が上手下手ではなく、このように人が集まることにより、楽しく描くことができることを実感しました。

多くの参加者から「次はいつですか、ぜひ次回も誘ってくださいね」という言葉をかけていただきましたので、早めに企画したいと思います。(記・岡崎 正明)



オープンカフェでの講評会

昨秋11月27日(日)に実施された「スケッチの会」は天候にも恵まれ、集合場所である大阪市中央公会堂近くの広場では小規模ながら物産展も開かれていました。

10時に集まった参加者は、今回の発案者で講師の渡辺廣史さんから挨拶と説明を聞いた後、中央公会堂周辺の思い思いの場所で描くことになりました。

12月10日はOISの日

2011事遊展 会期12月8日～10日

第26回陶芸教室



2011年の事遊展はコラムギャラリーで開催され、テーマは特に設けず、「事」=仕事、「遊」=趣味・遊び部門からの出品と、本年度実施の「陶芸教室」の作品を展示した。

今回は12月10日を「OISの日」と位置づけた集客を図る努力が少しは報われた感じを受けた。

出品しなかった人は、今回の作品を次のブログで確認し、次回は是非挑戦してください。

OISのblog : <http://oisblog.exblog.jp/>



陶芸教室 = 10月23日(日) / 於: 丹波立杭「丹文窯」

「かんしゃ」の心、忘れずに…篆刻教室に参加して



ンスでもありました。

最初に篆刻の基礎知識を伺い、説明のうまさに「さすが」とひとしきり感心した後で、事前にリクエストしておいた文字をデザインして下書きしてくださっている石に篆刻刀で彫り始めました。

ゴムや木を彫るイメージでうまくいくと疑いなく彫り始めたところ、硬くて、力を入れても

少しずつしか彫れません。無理に進めようとすると彫ってはいけない部分を彫ってしまったり、全く思いどおりにならず、相手が石であることを実感しました。

わたしは平仮名で「かんしゃ」と彫ったので、カーブが難しかったためにうまくいかなかったのかと、直線にも挑戦しましたが、これも全然だめでした。サクサクと篆

刻を完成させて賞までとってしまわれる宮後先生の器用さには脱帽します。

思いどおりにならないことや、初めて挑戦することが少なくなる40代、「得意じゃない、やったことがないことにチャレンジする」と決めたちょうどその時期に、篆刻教室で彫った「かんしゃ」の文字は、私に「初心の新鮮さや驚き、感謝の気持ちを忘れるべからず」と見るたび思い起こさせてくれそうで、私が主催するセミナー告知チラシやお便りなどに、それ以来、必ず押して愛用しています。



山田さん

参加させていただいて、本当に良かったと思っています。宮後先生や準備して下さった皆さん、ありがとうございました。



(記・山田 弘美)

笑いすぎた忘年会

早いもので、もう去年の話になってしまっていますが、12月10日に行われた忘年会は、事遊展開催の最終日に合わせて、天神橋商店街のイタリアンレストラン「ソタレ」で行われました。ほとんどの人が事遊展を見て、その流れで向かうという感じですから、そろそろ歩いている時から忘年会が始まっているような楽しさになっていました。

昨年は特にいろんなことがあつた一年でしたので、久しぶりにお会いする方々とも、大きなこと小さなこと、仕事や日常のことに話が弾み、また、お酒も随分進み時間が過ぎるのも忘れてしまう程でした。

恒例のペーパークイズでは、有名な詩や簡単な歌詞なのに、意外と覚えていなくて、皆んな頭をかきげ、とうとう景品はジャンケン合戦になりました。それはそれで又楽しくて年齢を忘れての盛り上がりを感しました。



↑宮本さんの一本締めでお開き ↑南野さん

まだまだ笑いの真っ只中にお開きの時間となり、再び、賑やかな商店街を、話しの続きをしながら駅まで一緒に歩きましたが、なごり惜しい年の瀬でした。

いろいろな事情で、なかなか集まりにくいご時世のため、今回の参加者は30人でしたが、これからも見学会、デザイナーズバーなどで、楽しいひとときを皆んなで過ごせたらと思います。(記・南野 江以子)

今後の予定

①第11回Designer's Bar

日時：2012年2月10日(金)18時30分～
場所：コラムデザインセンター1階
会費：1,000円
ミニトクVol.5「Face bookって何？」
説明：園田 寛明

②ASO-BOZE(街歩き)

日時：2012年3月25日(日)時間未定
場所：通天閣、ジャンジャン横丁から
飛田「百番」へ
会費：未定

★内容決定次第、案内状を送ります。



証書伝達式

2級 木本さん

第51回インテリア設計士資格検定試験の合格・登録者に対する証書伝達式は9月17日(土)“大阪市立住まい情報センター”で行われた。

式典は、宮後会長の挨拶、証書授与、DVDによる協会PRと進み、最後に当日参加した理事が紹介された。

理事の参加は、合格者の参加が少なかったため、正副会長、専務理事と青年部長、時間の都合等で省略されたが、簡単なパース、スケッチ手法のミニセミナーのための広畑理事に絞られた。



DVDによる協会PRのもよう

式典終了後、同センターからほど近いイタリアンレストラン“ソタレ”に会場を移し歓迎会を行い交流を深めた。

(記・事務局)



参加理事の紹介(左から奥田・広畑・瀬部・田原・南野・梅田・西脇・宮後)

学生一人一人が……

学ぶことの大切さを実感

羽衣国際大学講師 宮崎陽子

本校では、人間生活を総合的に学ぶ生活マネジメント専攻コースに所属し、住まいやインテリアに関心を持つ学生が、インテリア設計士の資格取得に挑戦しています。2008年度から毎年受験しており、今年度も晴れて5人が合格しました。

教員の立場で感じるのは、インテリア設計士の資格のために必要な大学での授業や受験勉強を通して、学生が大きく成長を遂げていることです。合格後に寄せてもらった学生の感想を見て、その思いを新たにしました。

「室内パースや展開図が大変で夜遅くまで残って製図をしたこともあり、一時は挫折しそうになりましたが、一緒にす



羽衣国際大学の合格者と宮崎先生(右端)

る仲間がいてお互いに協力し合えたこと、また先生方の熱心な指導があったからこそ合格へと繋がったと思っています。(Sさん)「勉強を進めていくうちに、日常生活でもインテリアに対する新たな発見や工夫に気付き、より関心を深めることができました。(Mさん)「目標に向け取り組む楽しさ、やればやるだけ自分の知識になる面白さを今まで知らず、それをこの資格勉強から得ることができました。挑戦することがどれだけ大切なのかを実感することが出来ました。(Hさん)」そして今後、「設計士協会の行事など積極的に参加し、多くのことを学び視野を広げ活用していきたいと思います」。

インテリア設計士としてはスタートラインに立ったばかり。でも、学ぶことの本質に近づいた学生達の秘めたる力に大きな期待をしています。

これからも皆さまからのご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

京都府インテリア設計士協会
KIS企画

姫路城は奇蹟の城

姫路城大天守修理見学施設
「天空の白鷺」研修バスツアー
2011年10月30日(日)



約5年をかけて屋根瓦の葺き直しや、漆喰壁の塗り直しを中心に行う

中世の赤松貞範の築城に始まり、徳川時代の播州姫路初代藩主の池田家から幕末の酒井家忠那に至るまで、城は異例の多さで藩主が迎え、徳川時代は特に地政学上の要衝の地として、外様大名を見張るために時代や状況に見合った城主が入城しました。その事実は薨の家紋が変遷を物語っています。

築城から1871年(明治4年)の廃城に至るまで、幕末の開戦危機などを回避し、太平洋戦争では天守に落ちた焼夷弾

が不発弾だったため、奇蹟的に消失を免れました。大天守解体修理に伴う元米軍爆撃主へのインタビューでは、姫路城に対する爆撃回避の指令はなく「まさに奇蹟」との答えでした。

焦土と化した姫路市が夜明けを迎えるなか、やがて浮かび上がる城のシルエットは、市民の心に「希望の灯」となり戦後復興の力となったと伝えられています。

明治の廃城令の後に一度は荒れ果てた城が見直され、国宝四城(彦根城・犬山城・松本城)の一つであると同時に、ユネスコの世界遺産に登録されたことは日本にとり大きな誇りであると共に、平和のシンボルであると思います。

KISの皆さん、楽しい見学会を有難うございました。「和」は小雨降る中でも似合いますね。今後の催しにもお誘いください。

(記・渡辺 廣史)

